様式２

番号 ＼ 観点	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
	27・教芸	第１学年 第２・３学年（上） 第２・３学年（下）	音楽・727 音楽・827 音楽・828	中学生の音楽１ 中学生の音楽２・３上 中学生の音楽２・３下
取扱内容 （学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標、内容等）	○　歌唱 　第１学年では、斉唱から混声三部合唱までを扱い、主旋律や他の旋律とのかかわりを意識しながら歌ったり、情景を思い浮かべながら日本の歌曲や世界の歌を歌ったりする活動、第２・３学年では、 斉唱から混声四部合唱までを扱い、曲想を味わい、声部の重なり方などを理解しながら歌ったり、曲想を生かしながら日本の歌曲や世界の歌を歌ったりする活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　器楽 　第１学年では、アルト・リコーダーと歌唱で合わせたり、曲のまとまりを感じ取って演奏したりする活動、第２・３学年では、器楽の活動を通して、アルト・リコーダーと歌唱で合わせて演奏したり、曲のまとまりを感じ取って演奏したりする活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　創作 　第１学年では、イメージをもとに、いろいろな音を使って音楽を構成したり、日本の音階の特徴を理解して旋律をつくったりする活動、第２・３学年では、和音に含まれる音を使ったり、歌詞の抑揚を生かして旋律をつくったり、構成を生かしてリズムアンサンブルをつくったりする活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　鑑賞 　第１学年では、日本の民謡の特徴や世界の諸民族の歌と楽器の音楽を聴く活動を通して、多様な音楽のよさや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する活動、第２・３学年では、日本の民謡の特徴や世界の諸民族の歌と楽器の音楽を聴くことを通して、多様な音楽の情景や構成の理解を深める活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　〔共通事項〕 　第１学年では、活動内容に示された〔共通事項〕を意識しながら、曲のまとまりを感じ取って歌ったり、曲想の変化を感じ取って、曲を聴いたりする活動、第２・３学年では、活動内容に示された〔共通事項〕を意識しながら、旋律や曲の構成と音の重なりを理解して歌ったり、曲の流れを感じ取って聴いたりする活動が取り上げられている。 ○　知識，技能の習得、活用、探究への対応 　第１学年では、図を見ながら呼吸や姿勢、発音などを意識して発声したり、指揮の仕方について体験したりすること、第２・３学年では、歌の雰囲気や感じ取った気持ちを表現するために声の出し方を工夫したりすることなど、基礎的・基本的な知識の習得を図る学習活動が取り上げられている。			
内容の構成・排列、分量等	○　内容の構成、排列 　全学年で、斉唱や簡単な重唱を通して、曲の構成や音の重なりを理解する活動の後に、混声合唱を通して、全体の響きを感じ取り、声部の役割を理解したり、曲想や歌詞の内容を味わいながら歌唱したりする活動を扱うなど、系統的・発展的に学習できるよう工夫されている。 ○　内容の分量 　第１学年～　歌唱の教材数は 24、器楽の教材数は 1、創作の教材数は 3、鑑賞の教材数は 64 であり、総ページ数は 80 ページで、前回より約 11%増となっている。 　第２・３学年～　歌唱の教材数は 40、器楽の教材数は 0、創作の教材数は 6、鑑賞の教材数は 84 であり、総ページ数は 160 ページで、前回より約 11%増となっている。（上下を合わせた数）			
使用上の配慮等	○　日本の歌の作詞家や作曲家の言葉をコラムで示したり（全学年）、基礎的な事項の理解や確認ができる「ここが分かれば Grade up!」と「My voice」という項目を掲載したり（全学年）するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○　言語活動の充実を図るため、鑑賞の活動において紹介文を書くことを行ったり、学習活動のヒントをキャラクターによる「吹き出し」で掲載したり（全学年）、「創作」の活動などを通して、グループ活動等によって学習を進める「Let's Create!」として示したり（全学年）するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○　「音楽の約束」のまとめのページに各学年で学習した〔共通事項〕を示したり（全学年）、学習参考資料として各種コラム（全学年）や和楽器（1 年）、西洋の楽器（2・3 年上）、作曲家年表（2・3 年下）、などをまとめて掲載したりするなど、使用上の便宜が図られている。			
その他	○　北海道と関連のある教材は、民謡の「ソーラン節」「江差追分」を地図上に示すとともに、歌唱や鑑賞の教材として扱うようになっている。また、パシフィック・ミュージック・フェスティバルの写真を掲載したり、郷土の芸能で「アイヌ古式舞踊」の鑑賞を取り上げたりしている。 ○　使いやすさを考え，AB 変型判のサイズを採用している。 ○　全ての生徒にとって分かりやすく、取り組みやすくなるよう、シンプルなデザインにするなど配慮している。			